


Deloitte.
デロイトトーマツ






トーマツ

独立した第三者保証報告書

2017年6月12日

積水化学工業株式会社
代表取締役社長 高下 貞二 殿

デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社
東京都千代田区丸の内三丁目3番1号
代表取締役  

デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社 (以下「当社」という。)は、積水化学工業株式会社 (以下「会社」という。)が作成した「CSR レポート 2017 (PDF 版資料編を含む。)」(以下「報告書」という。)に記載されている  の付された 2016 年度の重要なサステナビリティ情報 (以下「サステナビリティ情報」という。)について、限定的保証業務を実施した。

会社の責任
 会社は、会社が採用した算定及び報告の基準 (PDF 版資料編主要パフォーマンス指標算定基準) 及び「サステナビリティ報告審査・登録マーク付与基準 付則」(サステナビリティ情報審査協会 (以下「J-sus」という。)) に準拠してサステナビリティ情報を作成する責任を負っている。また、温室効果ガスの算定は、様々なガスの排出量を結合するため必要な排出係数と数値データの決定に利用される科学的知識が不完全である等の理由により、固有の不確実性の影響下にある。

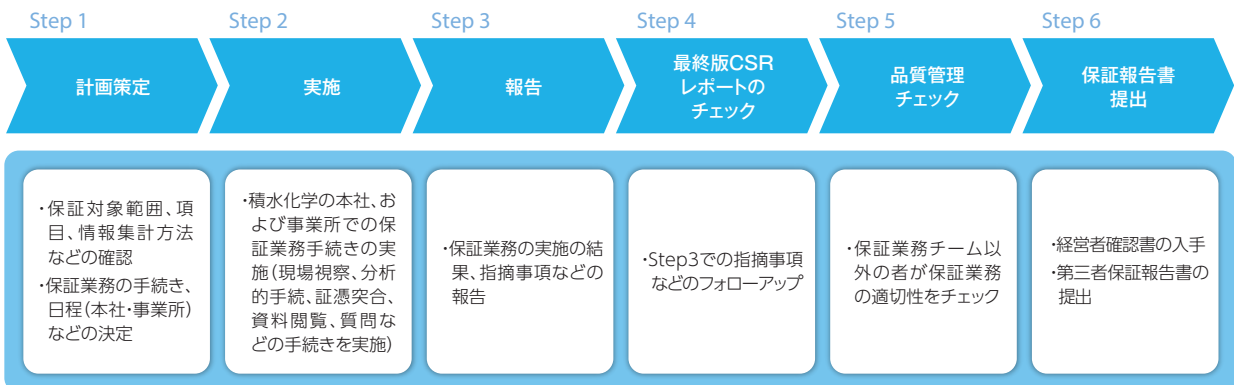
当社の独立性と品質管理
 当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく、国際会計士倫理基準審議会の「職業会計士の倫理規程」が定める独立性及びその他の要件を遵守した。また、当社は、国際品質管理基準第1号「財務諸表の監査及びレビュー並びにその他の保証及び関連サービス業務を行う事務所の品質管理」に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

当社の責任
 当社の責任は、当社が実施した手続及び当社が入手した証拠に基づいて、サステナビリティ情報に対する限定的保証の結論を表明することにある。当社は、「国際保証業務基準 3000 過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(国際監査・保証基準審議会)、「国際保証業務基準 3410 温室効果ガス報告に対する保証業務」(国際監査・保証基準審議会) 及び「サステナビリティ情報審査実務指針」(J-sus) に準拠して、限定的保証業務を実施した。
 当社が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、質問、プロセスの観察、文書の閲覧、分析的手続、算定方法と報告方針の適切性の検討、報告書の基礎となる記録との照合又は調整、及び以下を含んでいる。
 ・ 会社の見積り方法が、適切であり、一貫して適用されていたかどうかを評価した。ただし、手続には見積の基礎となったデータのテスト又は見積の再実施を含めていない。
 ・ データの網羅性、データ収集方法、原始データ及び現場に適用される仮定を評価するため、事業所の現地調査を実施した。
 限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務に対する手続と比べて、その種類と実施時期が異なり、その実施範囲は狭い。その結果、当社が実施した限定的保証業務で得た保証水準は、合理的保証業務を実施したとすれば得られたであろう保証水準ほどには高くない。

限定的保証の結論
 当社が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、サステナビリティ情報が、会社が採用した算定及び報告の基準、及び「サステナビリティ報告審査・登録マーク付与基準 付則」(J-sus) に準拠して作成されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

以上
 Member of
 Deloitte Touche Tohmatsu Limited

第三者保証手続きの概要



積水化学グループ CSRレポート SHIFT2019に生かすCSR

統合報告とは報告書の態様を表す言葉ではなく、財務情報と非財務情報が有機的に結びつき、将来の企業価値向上につながるストーリーが書かれている“企業の将来ビジョン”である。統合報告書を発行する企業は増えてきているが、財務情報にCSR記事をホッチキスで留めただけの報告書が目につき、残念ながら発行の目的をはき違えているものが多い。真にCSRを企業価値につなげようとしている企業は、CSR施策を中期経営計画の中でどのように企業価値につなげようとしているか具体的に述べている。この点で積水化学グループのCSRレポートは読み応えがある。今年、積水化学グループは“SHIFT2019”と名付けられた新中期経営計画を発表した。この中でESG(環境、社会、ガバナンス)をどのように企業価値につなげようとしているか明示している。これは真の意味で財務情報と非財務情報を“統合”したストーリーを社内外に発信する野心的、革新的なチャレンジを始めたことを意味しており、その積極姿勢を高く評価したい。

具体的には本CSRレポートのトップメッセージで高下社長がわかりやすく説明しているのでぜひお読みいただきたい。P4で“際立ち”(競争優位性)と“くらし&環境貢献”(市場開拓可能性)の二軸で成長戦略を表現し、両方を高める製品群を成長エンジンとして増やしていくと説明している。その決意の強さは「CSR経営推進室」を経営戦略部に設置し、経営企画はもちろんのこと、IR、広報などとの連携を強化したこと、成長に向けた投資として「環境貢献投資」に3年間で120億円の投資を行うと明示していることの二点から伺うことができる。まさに積水化学グループが新しい経営戦略に踏み出した元年である、と刮目すべき内容であろう。

積水化学グループはESGを明確に経営計画に取り込んだ先進企業であるから、ぜひとも他社の模範となる情報開示を行っていただきたい。この視点でいくつか課題を指摘したい。ひとつ目は



(株)クレイグ・コンサルティング 小河 光生
代表取締役 (おがわ みつお)

早稲田大学卒業。大手自動車関連メーカーを経て、ピッツバーグ大学経営学修士(MBA)取得。三和総合研究所、PwCコンサルティングで経営コンサルティングにたずさわる。2004年に独立し、現在に至る。組織論・人材活性化論が専門分野。おもな著書に「ISO26000で経営はこう変わる」「CSR 企業価値をどう高めるか」(日本経済新聞社)など多数。名古屋商科大学大学院 マネジメント研究科客員教授。

新CSR中期計画の目標値(KPI)について、中期経営計画との連動性を高めていきたい。CSRレポートP10に新しい目標値が掲げられているが、3つの際立ちの目標値が単にCSRのKPIとして存在するのではなく、SHIFT2019の経営数値目標に連動し、どこにどれほどのインパクトでつながるか説明したい。難しい課題であるが、企業価値向上のストーリーの中で新CSR目標値を位置づければ社内外の理解は一層高まる。

二つ目は人材に関する目標である。人材はSHIFT2019の経営基盤に置かれるもっとも重要な要素の一つである。グローバル化を一層進める同社の経営戦略の中でダイバーシティの目標を掲げることは納得感があるが、それが女性活躍と障がい者雇用を中心としていることはKPIとしてやや物足りない。たとえばグローバル人材が現地の経営を担う比率などの野心的目標が積水化学グループらしい目標になるのではないかな。

三つ目は社内浸透である。今年のCSRレポートP14-17には、R&D部門と社外の開発パートナーのダイアログが収録されている。昨年わたしは第三者意見でステークホルダーとのダイアログを実施すべきと指摘したが、課題を早速実行に移すスピード感は素晴らしい。これを読む社員はR&Dセンターが取り組む社会課題テーマをよく理解することができるだろう。こうしたダイアログに加えて、新中期経営計画でサステイナブル(=持続可能な経営)を入れた意味を社内に浸透させていきたい。たとえば、高下社長が新中期計画を社内へ説明をしていくことに合わせ、社員研修の一環としてCSRをリーダーシップ研修のテーマに入れていくことを検討してはどうだろうか。経営戦略部内に新設された海外統括部門が人事部門とともにグローバルでサステイナブルをテーマに、リーダーシップ研修を企画することも同社らしい取り組みになるのではないかな。

以上

第三者意見を受けて

貴重なご意見を賜りまして有難うございます。

CSRの取り組みを企業価値の向上につなげていく、これを実現してこそ、「サステイナブルな社会の実現に貢献する活動」が持続可能なものになると考えています。

今回いただきました「人材に関する目標などCSR目標値と経営数値目標との連動性を高める」というご助言をしっかりと受け止め、企業価値向上に向けた「統合」ストーリーの明確化に注力し、積水化学グループのCSRに対する社内外の一層の理解促進を図ります。

サステイナブルの要素を取り込んだ新中期経営計画“SHIFT2019 -Fusion-”や、事業とCSRとの統合思考を意識した新CSR概念図への想いを「社内浸透」させるために、国内外でのビジョンキャラバンや新CSR研修の企画・実施を進めてまいります。

SDGsなどで示された目標の実現に向けて当社グループがどう貢献できるのか、経営層も含め全社一丸となって考え、推進する体制を強化し、企業価値の向上につなげてまいります。



積水化学工業(株)
取締役 常務執行役員
経営管理部担当 経営戦略部長

平居 義幸